

寮生活でゲーム依存から脱却した高校生の話

8月8日彼のお母さんが、県教委社会教育課主催の合同相談会に来られ、相談を受けた。聞くに、彼は中学1年の後半から不登校になり、中学2年生の時は再登校したものの、中学3年生で再び不登校になった。父親のDVに耐えきれず彼の小学校入学を機に、母親の実家のある街に緊急避難した。従って、彼の父親は彼らの居場所は知らないし、勿論のことずっと連絡も取っていない、接触もない。「父の不在」である。

その3日後の8月11日に、母親から再び対応の相談を受け、8月20日ご自宅に訪問し、初めて彼とお会いした。本人の希望で私と二人だけで話を聴いた。小学校の時から同級生に執拗ないじめを受けたことから、彼は有名になってそうした子ども達を救いたいと願う一方で、FPSの戦闘ゲームにはまり、ゲーマーとして生活していきたい、と本気で夢みていた。「じゃあ、もう中学3年生になった君は、高校はどうするの?」と聞けば、経済的な理由から県立の普通高校に行きたいと言う。ならば、この際点数は気にせず、まずは9月初めの学力調査試験は受け、9月25日を目途に再登校し、その次の定期試験で結果を出すべく勉強を始めることを提案した。彼はその提案に同意し、体験授業の後当グループの東進中学NETに入学し、特に苦手と言う英語と数学のその定期試験範囲の単元を申し込んでもらった。

ところが、週1日のメンタルトレーニングと週2日のカウンセリングを行いながら状況を確認していくに、学力調査試験は別室でも受けられず、東進の授業もたった2日間だけ垣間見ただけで、90分間の授業をまともに受けていない状態だった。それ故、9月27日に訪問して、本人に生活習慣改善のため、提携する寮で共同生活しながら生活習慣を立て直し自立することを提案し、3日後にその返事を聞くことになった。

そして3日後の12時半、寮のスタッフと共に彼の家を訪問し、彼と話し合い、1か月後の生活改善を願い、体験入寮を決意した。ゲーム仲間にも別れのメッセージを送り、パソコンを閉じ機の引き出しにしまい、寮のスタッフと一緒に自宅を出た。

その間の寮での学習は、当該中学校の出席認定を受けた。寮での生活は、朝6時起床でラジオ体操、朝食当番か農作業をして、7時15分朝食。8時から寮と自室の清掃で、9時から1時間読書。10時の朝礼後、50分2コマの学習。12時5分から昼食、休憩。週3日、13時半から30分食材の農作業がある。14時から再び50分2コマの学習と、16時から運動や班活動。17時から自由時間になり入浴をすます。交代で夕食当番もある。18時半に夕食。19時から30分日記を必ず書く。19時半から食堂で自由時間だが、TVや洗濯は予約制。パソコンもあるが、彼は自ら使用禁止を申し出た。21時に自室に戻り、21時半には消灯となる。土日祝日は、学習時間が食事当番か土曜のみ食材の買い出し、あるいは洗車など寮の外清掃になる。集合ごとに点呼・挨拶が行われ、毎日規則正しい寮生活を送った。ゲーム三昧の生活から自ら驚くほど一転した。

1か月後、「自宅に戻ると再びゲームに依存しちゃうから」との理由で、翌年2月まで寮

生活延長を申し出て、私が携わっている「国内留学・地域魅力化プロジェクト」に関わる寮のある県立高校の入試を受けることになった。

結果、勿論入学合格を果たし、寮生活でゲーム依存から完全に脱却して楽しい県立高校生活を送った。